

リレー随筆

量と質ではどちらが大事か

鹿児島大学病院 神田 佳樹

今回リレー随筆を担当させていただきます
神田佳樹と申します。鹿児島大学病院を基幹
とした2年間の研修期間を終え、2020年4月より
鹿児島大学病院脳神経内科医局に入局し現在
医師3年目として勤務させていただいております。

これまでの先生方の書かれた随筆を拝読さ
せていただくと、ご自分の趣味などとても興
味深い話が多く、楽しく読ませていただきま
した。引き受けたのはいいものの私は随筆な
ど書いたこともありませんし、私には到底人
にお話できるような趣味はありませんので、
仕事について私が感じていることを書かせ
ていただこうと思います。

私が医師として勤務を始めて最初につま
ずいたのが静脈採血や動脈採血でした。2年間
の研修期間の中でたくさんの患者様に採血を
させていただく機会がありました。

初めて採血をしたときは針を持つ手が震
えていたのをよく覚えています。

最初の頃は手順も曖昧なままで挑んでしま
って失敗をして患者さんに怒られたこともあ
りました。

最初は自分には決してできるようになら
ないかもしれないと思って諦めようかと思っ
たことも何度もありました。そのような中で
自分がどのようにして上達してきたのかを振
り返りました。それは失敗を繰り返しながら
もひたすら数をこなしてきたからだと思います。

量より質が大事だと言われます。もち
ろん私もそうだと思っています。しかし、質
は目に見えるものではないし、自分では質が

保たれているかどうかは分からないことが多
いと思います。質を保つためにはまずは質と
は何かを自分で試行錯誤して見つけることが
最初の難関だと思います。そのためにもた
くさんの失敗も含めて何度も数をこなす必要
があります。

さらに数をこなすことで自分に自信がつ
くと思います。これだけたくさん経験してき
たのだから大丈夫という気持ちで今ではのぞ
めるようになったように思います。そしてた
くさんこなしていく中で採血をする手順を覚
えて速度も速くなったような気がします。失
敗をすることで周囲に迷惑をかけてしまいま
すが、そこから学ぶことは成功から学ぶこと
よりも何倍も大きいと思います。

私がとある先生から教えていただいたのは
何事もtry and errorが大事だということ
でした。たくさんの失敗を繰り返してその中
から学びを得ることが大事だと教えていた
だいたのをよく覚えています。私は質も大事
だと思いますが、まずはそれ以上に脱初心
者のために量をこなすことが大事だと思
います。

2年間の研修期間を終えて医師として勤
務する今でもわからないことやできないこ
とだらけです。採血のみならずいろんな手
技を経験してきました。また手技に限らず
ともわからないことやできないことだらけ
の毎日です。そのような中でも採血と同じ
ようにtry and errorの気持ちを忘れず
に日々業務をこなしていくように心がけて
います。私は3年目になった今でもなるべ
く患者さんの採血を自分でするように心
がけています。失敗して恥ず

かしい思いや辛い思いをしてしまうこともあります。負けずに繰り返しています。

ただ、たくさん数をこなせばそれでいいというものでもないのも事実です。反復練習をして、それを振り返ること、上手な人のモデルを見つけてそれを目標にしたりまねしたりすること、また上達するためにどうすればいいかを常に考えることが重要になると思います。

今年は新型コロナウイルスの感染が拡大している中で、医療者として働いております。その中で私が思うことを書こうと思います。医療従事者であることを告げると感謝やねぎらいの言葉をいただくことが多々あります。ありがたい言葉だと思う反面、自分が特に何かできている訳でもなく、正直自分自身の身を守ることで精一杯でありこのような言葉に対して申し訳ない気持ちになります。医療関係者としてはこのような感謝やねぎらいの言

葉にふさわしい行動ができるように努力したいと思っています。新型コロナウイルスの感染の流行が少しでも早く終息することを願うばかりです。

拙い文章となってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。随筆を書くことを依頼された際には自信がなかったですし、正直あまり気が進まなかったのですが、実際に書いてみると文章の書き方など学ぶことも多くあったように思います。このような貴重な機会をいただけたことに感謝致します。

次号は、今村総合病院 伊井 誠先生のご執筆です。
(編集委員会)